

2023年

なぜ英語を学ぶのか？

COVID-19による入国制限がほぼ解除され、海外からの観光客が戻ってきました。皆さんはそれら観光客から例えば英語で道を聞かれたら即答できますか？

この記事を読んでいる皆さんは、中学校と高等学校で英語を学んだ、もしくは、学んでいる最中でしょう。しかしながら、おそらく、多くの方が、海外からの観光客から英語で話しかけられるとhesitate (躊躇) してしまうのではないのでしょうか？

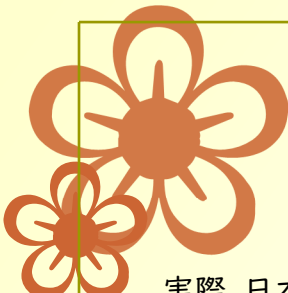
中学校における英語の学習は高等学校に入るため、高等学校における英語の学習は大学に入るためだと思っている方が多いように思えます。しかしながら、これが本当に英語を学ぶ目的でしょうか。英語を学ぶことは英語でコミュニケーションを図れるようになること、国際人になることが最大の目的でないのでしょうか。

筆者は大学院博士課程2年次(26歳)に、学会発表のために初めて海外の地を踏みました。その地はアメリカ・フィラデルフィアでした。恥ずかしい話ですが、陳列棚にあるパン一つ買うのも一苦勞でした。ここで大いに奮起して、英語力、特に「話す」力を付けるための学習をすれば良かったのですが、先送りして、自分なりに英語を意識して学ぶようになったのが50歳代でした。しかしながら「too late (遅すぎた)」でした。

この記事を読まれている方は「理系」の方が多くいるものと思っています。理系の方はとにかく英語力に対して不安を持っていたり、苦手意識を持っているものです。理系の場合、大学・大学院に進んで研究者、技術者になる方も多いですが、研究者、技術者には英語力の要求が高いことを認識していない方は、是非、この機会に認識して下さい。もともと研究・技術には国境がなくグローバルなものです。自らの研究・技術を伝える手段は「言葉」であり、世界の共通語的存在である「英語」が伝達手段となるわけです。

英語力は4技能からなります。「Reading (読む)、Writing (書く)、Listening (聞く)、Speaking (話す)」です。この4技能を凹凸なく付ける必要がありますが、高等学校、大学の入学試験問題はこの4技能を測ることができていますか？「読む」、「書く」に偏っていませんか。よって、高校受験、大学受験のための英語学習は英語力を身に付けるための学習ではなく、高等学校、大学に入るための学習となってしまいます。

中学生、高校生を対象にした4技能を図る英語能力試験があるのを皆さんは知っていると思います。英検、TEAP、GTEC、TOEFL、IELTS等が4技能を図る能力試験です。英検は小学生から社会人まで、TEAPとGTECは高校生のための能力試験のようです。海外の大学、大学院への留学を目指す方にはTOEFLまたはIELTSが必須となります。海外の大学、大学院でDegree (学位) を取得することを目標にする方が増えることを期待しています。



実際、日本に居ながら「聞く」能力、「話す」能力を身に付けることは大変だと思います。「聞く」能力はバラエティーに富んだラジオの英会話プログラムの利用が考えられます。「話す」能力の向上は日常、英語を話す機会のない私たちには難しいですね。英語を聞きながらそれを真似して発音する「Shadowing」が有効ではないでしょうか。Shadowingならラジオの英会話プログラム等を利用すれば日常でも可能です。

もし、英語学習が高等学校、大学に入るためのものになっていると感じたならその学習から脱却してみてもいかがでしょうか。日常から4技能を見据えた英語学習への転換を期待しています。皆さんなら、いまから転換すれば「too late」ではありません。すぐにでも、国際人になれるはずで

(東京都市大学 田口 亮)